

川  
柳

愛 子

(鶴沼川柳同好会)

科学誌で満たすミクロの好奇心  
周りの目あつて万札届け出る  
喜ぶは夫ばかりの盆帰省  
閃きを究め極めてノーベル賞  
園児らが明日またねのおやくそく

赤堀 晶子

(六会川柳会)

亜熱帯化現実味帯び迫り来る  
待合所内緒話に向かぬ耳  
ファミレスはタッチパネルに給仕ロボ  
防災の意識トラフが目覚めさす  
夜が明けるいい事だつてきつとある

雨宮 則子

(湘南台川柳会)

米値上げ他も値上げで音を上げる  
軍拡に軍需産業はくそ笑む  
新調のメガネくつきり見える皺  
見えていない一字一句はそこにある  
ほんやりとドロップ形の月涙

いさを

(辻堂川柳会)

がまんとは入れ墨のこと辞書で知る  
良い外科医出会えて手術今がある  
五月蠅いと小さき命捕まえる  
トランプに振り回されて渡米する  
年に一度行う仕事硝子拭き

石川 正明

市川 嘉紀

(湘南台川柳会)

(鶴沼川柳同好会)

ノッてきた延長誘う五分前  
お局をスパッと切った管理職  
連れてつてくれた記憶の握る寿司  
帰省中ごろごろスマホ居間にいる  
手の先にスマホ装着令和の絵

嫌な奴セールスコンビ組まされる  
気乗りせずわざと遅れる見合い席  
店替り蕎麦喫茶ビザ空き店舗  
歯の治療鏡の中の皺の数  
どこへ行く秋風に乗る種子の旅

石綿 由美子

井上 朗

(湘南台川柳会)

(六会川柳会)

モンシロ蝶広い世界へ手をふる子  
まだ早い終活よりもチャレンジだ  
朝のクモ何か良いことある予感  
新しい世界を求めまず一步  
見おろせば富士の頂き手を合わす

ノート読み思い出してはバカ笑い  
飲みすぎたプレーキ利かせグラス置く  
野良猫が鳴いて近づき誘い来た  
散歩道ウグイス鳴きて呼び止める  
指切りで幸い願う約束よ

井上 朗

小野 敬子

(川柳おぶしの会)

(六会川柳会)

足腰に合わせて畝を休ませる  
春風にミヤクミヤクだつて飛び跳ねる  
癌検をパスしたあとの五月晴  
トランプへ怒り泡立つ大ジョッキ  
生きるとは耐えることだな夏の草

誘ってはないのについてくる夫  
皿の色気にせず食べる年金日  
顔わかるノドまでくるが出ぬ名前  
ゴミ箱で葉のんだか思い出す  
ランチにもシニア割効く店さがす

岡本 昌代

加藤 弘子

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

粘着力うすれはがれていく夫婦  
アバターの私とお酒くみ交わす  
故郷へ遺骨還れと海うなる  
アメリカを江の島の灯台で観る  
入学祝い栄一さんの大移動

キズを抱き風の向くまま風見鶏  
それあれで分かる夫婦で齢をとり  
母さんの匂いで焼けるタマゴ焼き  
探しものしている夕陽が早い秋  
いちにちを笑って過ごす修業中

川島啓史

日下部 いくお

(六会川柳会)

(湘南台川柳会)

湘南に江の島ありて道しるべ  
六会は学都の誉れ夢あふれ  
喜寿間近返納せよとおられる  
猛暑耐え藤棚のつる雨こがれ  
我が街に清水の谷戸田ホタル舞い

握った手昔ときめき今拒絶  
垣間見る人生縮図投書欄  
なつメロで昭和に浸る八十の会  
アレソレで領き合える老夫婦  
理不尽の戦禍長蛇の避難民

今日一

熊田松雄

(川柳こぶしの会)

(湘南台川柳会)

夏服も少し残して衣替え  
木が入り猛暑の舞台秋となる  
道草も食って人生深くなり  
買い物は百均覗き次の店  
馴染み店何時ものやつで出る料理

産声がいのちの旅のファンファーレ  
うっかりがふえてく老いを抱きしめる  
早起きに手持ち無沙汰の休刊日  
ジョーカーが隠し持つてる世界地図  
老いるほど見た目大事と妻チェック

胡頹子

笹原 英美子

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

号外に群がる人にハトのフン  
胃カメラが鼻から入りコンニチワ  
チーママの目配りサビ落とす  
子沢山長女ママより手際よい  
ヘルパーに洗い晒しの心見せ

散歩だよペット誘うも顔をむけ  
みな仕事平日ランチシニア族  
顔見知り名前浮かばずねえあなた  
温暖化節目つかない春夏日  
店頭に並んだスイカ季節呼ぶ

ケイ

島津富弥

(湘南台川柳会)

憧れの推しに散財惜しまない  
カメラ据えレアな鳥との出会い待つ  
空気読み自信なげに一步ひく  
休み明けやる気スイッチ入れなくちゃ  
次々にわんこがつなく人の縁

直線も時にカーブという安堵  
主流派に乗れない雑魚のいる激み  
献金の業火広がる永田町  
階段の手摺気骨が握らせぬ  
特養の窓開かせる遠花火

尚 風

(川柳ごぶしの会)

もったいない唱え続けてゴミ屋敷  
星条旗まとい暴れるトランプ氏  
葬りたい戦の怨嗟箱に詰め  
物価高隙間バイトで生活費  
ブカブカと大海原をブラの島

菅 沼 雅 彦

秋誘う一雨<sup>ひと</sup>づつの衣替え  
今年もか春なし夏がやってくる  
増えるのは薬の数とため息か  
カラオケで選ぶ曲で年わかる  
富士の山忍者をこえて七変化

竹 花 敏 夫

(湘南台川柳会)

ニワトリも食べてるらしい古古古米  
チャレンジも無限に続くAI化  
擦り切れたカバン会社を勤め上げ  
トランプに友好国もいじめられ  
川柳で心も豊か老上手

多 美 子

(六会川柳会)

乗り気では無いが断る勇氣無く  
このにおい勝てるもの無しラーメン屋  
幾つまで生きるつもりだ薬漬け  
四季でなく二季になる日がやって来る  
ひとり身で身軽なはずがひざこわす

近 下

(辻堂川柳会)

のら猫が仲間とみたか逃げもせず  
一言で碎けてしまう我が心  
陽を浴<sup>あ</sup>たつくし同士の背比べ  
ハイテクに会社追われて主夫となる  
レントゲン心のかげり映し出す

月 村 克 子

(鶴沼川柳同好会)

中年の犬と老婆が瘦ぐ夏  
三十回嘔んで米喰うありがたさ  
旅心彼を虜<sup>こ</sup>にしてみよう  
息子ほめ父親似かと母に聞く  
痛すぎる辺野古埋め立て海が泣く

戸 澤 千 鶴

(湘南台川柳会)

吾子抱え銃後の母は戦禍耐え  
握り箸を論す老爺の食べこぼし  
全権を妻に握られ濡れ落ち葉  
絶賛をするが読めない揮毫文字  
注射打ち腰に喝入れ行く花見

豊 田 真 一

伊勢参り大神宮は言いわけね  
言わないで福島行くの競馬しに  
先ず停戦次に和平の話し合い  
貴船川床<sup>ど</sup>豪雨よ無理よあきらめて  
妻のメモ重い買い物コスモスへ

長嶋 富士子

(湘南台川柳会)

産まれた子抱えたママは天使さま  
カラオケのマイク放さぬ好好爺  
過去を見ず前を見据えて今生きる  
映画館出て来た人はみな涙  
秋風と木枯らし四つに相撲取り

長屋 比佐子

(湘南台川柳会)

関東のすき焼きたまげた白いネギ  
人事決め鍵を握るは我自身  
背中押す母の言葉温かい  
団結で積み木崩れぬ家族愛  
夢を追う時の余白を持って余し

西村 雅子

(六会川柳会)

草むしり小さな椅子が役に立ち  
この猛暑止めるブレーキ欲しいなあ  
何回も終活ノート書き直す  
広報は手書手刷でざらざら紙  
何事も本音で向う友が好き

はじめ

(鶴沼川柳同好会)

反核の種まきをして平和賞  
トランプの目には見えないホセムヒカ  
宝くじ数字一つで逃げた億  
検査値がまたも好物取り上げる  
イヤイヤをしぶしぶまでにして躑

幡多 純

(湘南台川柳会)

おおまかでついフードロスひとり者  
オーバーにヒジャブで避ける紫外線  
路線バス間引き空白過疎地なみ  
友の愚痴相槌を打つ首が凝る  
アンティーク値切る掛け合い粘り勝ち

深野 いく生

通信簿より怖い健診結果表  
起き抜けの鏡に老いの大写し  
夫婦喧嘩夢では蹴って俺の勝ち  
知りたくはないが知りたい我が余命  
願わくは楽にコロリとゆくあの世

古木 光江

(鶴沼川柳同好会)

指切りの思い出出全部ゴミに出す  
バレバレで種も見え見え孫手品  
色付いた柿の実鳥が試し食い  
スマホから育児の指南受けるママ  
妻キレるとはけた顔で聞く小言

マ リ

(六会川柳会)

富士山がきれいに見える日は元氣  
マスクなし笑顔の人は誰だっけ  
失業と言わずフリーかつこっけ  
若いねと言われ戸惑う卒寿過ぎ  
手おくれと思いながらもサブリ飲む

水城 茂子

(六会川柳会)

何もかも値上げゆとりをうばわれる  
年金で何とか暮らすつつましく  
八十路坂まだへいちゃらだ気で越える  
衣食住足り健康であればいい  
かばい合いの労りあつて共白髪

守田 貴美子

(六会川柳会)

寄り道はしても結局帰る家  
しみついた浮世の垢ってどんな色  
一本の指の大事さわかる怪我  
離さずによかったこの手五十年  
惣菜を買ってひと手間付け加え

村田 和彦

柳澤 いそ江

(湘南台川柳会)

(鶴沼川柳同好会)

殺伐も心潤すありがとう  
甘言で囁いてくる還付金  
目覚しを毎朝起こす高齢者  
親父とは娘の下着別の竿  
秘書募集口の堅さがまず基本

虎の子を隠した先に掃除の手  
ちと訛る教師に習う標準語  
独裁の乗り気が見せる地獄絵図  
鉛筆でつつかれ背骨だけ目覚め  
弔辞披露生きている時それを言え

矢野 正

山田 案山子

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

カタカナ語老いのアタマが痒くなる  
お大事にその一言に励まされ  
病院へ付き添う妻も杖をつき  
納豆の粒も減ってる物価高  
願いごと持って子どもは伸びていく

昼食後妻とホットのレモンティー  
断捨離は惜しい惜しいの砂時計  
窓越しに大きな手話でありがとう  
ママチャリのかごでざわめく物価高  
年の瀬の人手不足にニヤーと鳴く

八幡 禮子

有

(川柳こぶしの会)

(辻堂川柳会)

おはようの声がとびかう通学路  
輪の中に溶けた笑顔の嗜好き  
見ぬ振りも聞こえぬ振りも生きる知恵  
好きな事何部やっても飽きは来ず  
生きるとは厄介風がわらつてる

副作用薬で抑え矛と盾  
相合の傘も今では杖代わり  
ときめきを不整脈だとナース言う  
野毛小路唯我独尊千鳥足  
差向い小さく祝う遍路宿

悠々

玲和

(辻堂川柳会)

(辻堂川柳会)

セットメニュー完食するが腹痛め  
総裁選「反省なきは進歩なし」  
次の店へ回転ドアでつんのめり  
おしゃべりで弾けてお名前はと聞けないよ  
腹回りライン気になり呼吸止め

ガラス戸を落葉がたたき秋がくる  
猛暑つづく入道雲の土俵いり  
万歳し蠅とり蜘蛛がジャンプする  
千鳥足月に追われて家路つく  
天才はひらめき凡才はそれ真似る

吉野 健司

(湘南台川柳会)

ハクモクレン手品のようにポツと咲き  
健康法いろいろやって身が持たぬ  
ダイエット邪魔するように五割引  
三億円当たってしまうのもリスク  
うるさいと言えずおにぎやかなことで

### 第三十八回 ふじさわ川柳大会記録

日時 二〇二五年 九月十四日(日)  
主催 ふじさわ川柳大会実行委員会  
共催 (公財)藤沢市みらい創造財団  
後援 藤沢市・藤沢市教育委員会  
会場 藤沢市民会館 第一展示集会ホール  
参加者数 六十九名

宿題 「指切り」 永井 天晴 選

#### 五客

指切りと裏切りとても仲がいい かつ子  
指切りの証し全うする介護 鹿声  
指切りで愛を誓った二枚舌 富弥  
指切りの最後になったフルムーン 純  
別れぎわの指切り指にまだ微熱 よしき

宿題 「指切り」 永井 天晴 選

#### 三人

「目まぐるしい」 田中 岳 選 したくても指切りできぬドラえもん 艶競  
「ミクロ」 相原 あやめ 選 地 指切りを覚えていたの私だけ 貴美子  
「しぶしぶ」 犬塚 博 選 天(市長賞) 指切りのグレーな嘘に月冴える 小鈴

特別課題 「ひらめく」 熊田 松雄 謝選

#### 軸

表彰 市長賞 宿題の天の句 四句

死ぬまで一緒約束守れない小指

宿題 「目まぐるしい」 田中 岳選

五客

踊らされ振り回されてまた選挙 松雄  
また違う彼女を連れて見せに来た 貴美子  
情報の洪水見当たらず浮き輪 象堂  
米野菜日替わりになる物価高 嘉枝子  
人が減り町内会の役がまた 久美子

三才

ハチ公も目をパチクリの渋谷駅 沙京  
太陽の塔も驚く半世紀 天晴

地

天(市長賞)

妻の留守まだ終わらない箇条書き ニュートン

軸

買った途端に旧型になるスマホ

宿題 「ミクロ」 相原 あやめ選

五客

平和への誓いミクロのころろざし 岳  
針の穴から機密がするり通りぬけ 象堂  
繊細なビールの泡にくすぐられ 健司  
懸命に生きてボツンと大都会 敏夫  
ちっほけなプライド謳歌自国主義 沙京

三才

遺伝子のルーツたどれば同じ母 成五  
真夏日に小さい秋を探してる 沙京

地

天(市長賞)

群衆に紛れ扇動するスパイ 昌代

軸

ズームイン毛穴に滲む嫉妬心

宿題 「しぶしぶ」 犬塚 博選

五客

しぶしぶ同意男の嫁がやってくる 岳  
ペアルック妻の笑顔に抗えず 小鈴  
ノンアルで酔った気分の休肝日 成五  
喜んでお供したのかきびだんご 淳  
こんなにも呑んでないよと払う金 雅律華

三才

喜ぶは夫ばかりの盆帰省 愛子

地

聞かないでおけばよかった熨斗袋 了三

天(市長賞)

母の目に射られ拳手する参観日 小鈴

軸

わが家では妻のひと言指示となる

特別課題 「ひらめく」 熊田 松雄 謝選

五客

暇だから馬鹿な考えだけ浮かぶ あやめ  
ピカドンが変えた日本の生きる道 壱郎  
ひらめきと遊び心に句は踊る 案山子  
閃光が走り瓦礫と子供の死 洋子  
ひらめいて足どり軽く出る句会 敏夫

三才

アイデアは酔いが回ると湧いてくる 稔

地

生き様を袈裟斬りにする稲光 薫

天

もう駄目と思ったときに出一手 岳

軸

ひらめきの金の卵を産む湯船